

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立南波多郷学館
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己決定力を高めるような取り組みの工夫をするとともに、学習の礎となる基礎基本の定着を図っていく。</li> <li>コミュニティ・スクールの認知度や充実度は高い。今後は、本校の教育目標等の周知にも努めていきたい。</li> <li>働き方改革の推進については、業務改善に向けた職員の意識の醸成や組織的としての具体的な方策を講じながら、更なる変革を進めていく必要がある。</li> <li>南波多郷学館9年プランの【発展期】（開校7～9年）である。</li> <li>到達目標6：校区外から郷学館への就学希望がある・・・義務教育学校としての南波多郷学館の取り組みを発信していく。</li> </ul>
------------------	--

2 学校教育目標	「ふるさとを愛し、夢に向かってたくましく挑戦する児童生徒の育成」～ふるさとに学ぶ ふるさとを学ぶ ふるさとの人と共に歩む～
----------	---

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「喜んで登校し、満足して下校する学校 南波多郷学館」を目指して</li> <li>自律的に判断し、活動するステージ経営を目指して</li> <li>教職員の職能開発と協働意識の向上</li> <li>コミュニティ・スクールとしての活動の進化</li> <li>学校における働き方改革</li> </ol>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価	
				達成度 (評価)	実施結果
●学力の向上	○児童生徒の主体的な学びによる家庭学習の充実による学力の向上	○学校が定める家庭学習の目標時間に到達する児童生徒が70%以上	・「主体的に行動する児童生徒の育成～家庭学習充実のための取組を中心として～」の研究主題のもと、各ステージで家庭学習に関する取組を検討し実施する。	A	・各ステージの発達段階に応じた家庭学習に関する取り組みを実施したことで、児童生徒の家庭学習に関する意識の高まりが見られた。 ・家庭学習の目標時間を把握した児童生徒は約8割に達したが、目標時間を達成した児童生徒は7割弱だった。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケートにおいて、「命や思いやりの大切さについてしっかりと考えることができている」と回答する児童生徒が90%以上	・教育活動の中で、ほめる(認める)機会を大切にし、児童生徒の自己肯定感を高める。 ・各学年の発達段階に応じた道徳科の授業、人権・同和教育「心のひろば」(教師による人権講話)を実施し、児童生徒の人権意識を高める。	A	・ステージ毎に連携し、ふれあい道徳や「こころの広場」を通して、子どもたちにいのちの大切さや、認め合い、助け合いながら生きていくことの大切さについて学習させることができた。児童生徒へのアンケートでは、90%以上が「命や思いやりの大切さについてしっかりと考えることができている」と答えた。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員が90%以上	・本校のいじめ防止対策基本方針をもとに、いじめの定義、認知、認知及び対応について共通理解を図り、全職員で対応する。 ・定期的に心のアンケートや教育相談を実施し、いじめの早期発見を行う。	B	・具体的取組の成果もあり、いじめ防止等(いじめの定義、いじめ防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員は100%であった。しかし、児童生徒や保護者の回答にはあまりできていないという声も見られたため、さらなる周知が次年度の課題である。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒が90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」という肯定的な回答をした児童生徒が85%以上	・様々な教育活動で意図的に出番をつくり、役割を計画的に与え、活動に対して的確に承認していく。	A	・学校行事やステージでの活動(集会等)、学級活動において取組を行った結果、「出番を作り、役割を与えて主体的に活動する機会を与えている」について、肯定的に答えた保護者や教職員がほぼ100%であった。また、「先生が自分を認めている」と答えた児童生徒が90%、「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童生徒が81%だった。今後も継続していきたい。
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童(前期課程)60%以上、生徒(後期課程)70%以上	・誰もが使える外遊びコーナーを作ったり、ボール遊びのコートを作ったりする。 ・体育の授業や南郷マツチにおいて児童生徒が自主的な準備や計画を行えるように計画する。 ・スポーツチャレンジを職員に周知し、学年の記録を掲示する。	A	・児童生徒に対して行ったアンケートにおいて「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒の割合は75%で目標を達成していた。郷学館マツチや児童生徒会活動と連携し、昼休みや放課後に運動する児童生徒を増やすことができた。
	○感染症予防教育の充実	○「手洗いうがいの習慣がついている」と回答する児童生徒の割合が90%以上	・1学期末、2学期末にアンケートを実施し、週間づいている児童生徒の割合を比較する。 ・健康委員会の活動で、手の洗い方についての啓発活動を行う。	B	・児童生徒に対して行ったアンケートにおいて「あなたは、きちんと手洗いうがいができている」と回答した児童生徒は80%程度だった。冬は寒さから手洗いを避けたがる児童生徒が多いだろうと予想していたが、想定より多く見られた。目標には届かなかったため、今後も啓発活動を行ってきたい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・毎週水曜日を定時退勤日とし、定時退勤を促す。 ・平日の部活動指導を週3回までとする。 ・業務内容を幅広い視点で見直すことで、分掌内で効率的かつ協働的に業務が進められるようにする。	B	・時間外在校等時間集計によると、概ね80%程度の職員が月45時間の上限を遵守することができた。週1日の定時退勤日では、勤務時間を意識しながら働く姿が多く見られた。 ・年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇取得日数が14日以上だったのは、約30%であった。職員一人一人が、自己に向き合い、ワークライフバランスの取れた働き方ができるような体制を整えたい。
	○業務の効率化の推進	○個人ではゴールと優先順位、組織としては行事の精選と業務の縮減に取り組み、効率化が進んだという教員が70%以上	・校務サーバーを整理し、これまでの文書データを効果的・効率的に活用できるようにする。 ・校務を整理し、諸問題に対してステージとして対応できるようにする。	A	・教職員へのアンケートによると「業務効率化」の意識を持ち、業務改善に向けて取り組んでいると回答した教職員は89%であった。また、「ゴールと優先順位を意識して業務の縮減に取り組み、効率化が進んだ」と考えている教職員は85%に上った。教職員一人一人が働き方改革の視点を持ち、業務に励むことができている。
●特別支援教育の充実	○一人一人のニーズに応じた個別指導の充実	○特別支援学級および通常学級において支援を要する児童生徒への指導・支援の充実が図られたと実感する教職員が80%以上	・校内においてケース会議や児童生徒の見取りを行い支援する。 ・関係機関を招聘しての職員研修を充実させ、「誰でもできる特別支援教育」を目指す。	A	・「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」(教育支援カード・シート)をもとに計画的な支援をするよう促し、次年度につながる評価と引継ぎを行った。 ・支援が必要な児童生徒の把握をし、学級担任と連携をとりながら支援を行った。 ・特別支援学級および通常学級において支援を要する児童生徒への指導・支援を行うことができたと実感する教職員が85%であった。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価	
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価	
				達成度 (評価)	実施結果
○自律的に判断し、活動するステージ経営	○ステージリーダーを中心とした各ステージ経営の充実	○教職員のステージ経営の充実及び満足度90%以上	・ステージ経営方針に沿って、OJTを核とした共通理解と実践を図る。 ・ステージに関する全教職員でステージを経営していく意識を醸成するためにも、ステージ部会の充実を図る。	A	・ステージ部会で、気になる児童生徒の情報共有を行ったり、学校行事やステージの活動の検討を行ったりすることができた。役割分担を行うことで、それぞれがステージ運営に関わる事ができた。「ステージ制の教育活動の充実」については、88%だった。より意見を取り入れていきたい。
○コミュニティ・スクールとしての活動の深化	○コミュニティ・スクールとしての活動の周知や啓発	○保護者や地域におけるコミュニティ・スクールとしての活動内容の認知度80%以上	・家庭・地域への周知と啓発を図るために、学校だよりやコミュニティスクールだより、学校ホームページ等を通して、積極的に情報を発信する。	A	・保護者へのアンケートによると、コミュニティ・スクールの活動の認知度は89%、地域と連携した活動の充実度は、93%という割合となり、目標達成できた。 ・学校だよりやコミュニティ・スクールだよりの発行、学校ホームページの充実等により、定期的に情報発信をすることができた。

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>●・・・県共通 ○・・・学校独自 ○・・・志と誇りを高める教育</p> <p>・発達段階に応じて各ステージで話し合いをし、家庭学習に関する取組を実施したことが児童生徒の主体的な学びにつながってきた。目標時間だけでなく、内容(質)の伴った家庭学習となるように、引き続き取組を行っていく必要がある。 ・「ふれあい道徳」や「心の広場」等、各ステージ内で連携協働しながら取り組むことで、自他の生命尊重や他者への思いやり等、児童生徒が豊かな心を身につけることにつながってきた。いじめ防止に關しての取組については、全教職員で組織的対応をしてきたが、今後も児童生徒や家庭への周知・啓発を引き続き行っていく。 ・働き方改革の推進においては、義務教育学校の特色を生かした小中の乗り入れ授業の実施や、部活動指導の小中連携、ステージリーダーを中心としたステージ経営の充実等の業務改善を図ったことが、時間外在校等時間の減少につながった。引き続き業務環境を整え、年次休暇を取得しやすい職場環境を整えていきたい。 ・本年度は、南波多郷学館9年プランの【発展期】(7～9年)の8年目である。 ・到達目標6：学区外から郷学館への就学希望がある・・・これまでコミュニティ・スクールとして地域と連携した様々な取り組みを通して、南波多郷学館のよさを発信してきた。発展プランの最終年に向けて、さらなる充実を図ってきたい。</p>
--------------------	---